

朝鮮民族美術館の概要

柳宗悦の建築史的評価の試み

日大生産工（院）○多田豊
日大生産工 藤谷陽悦

1. 建築史的評価の試み

朝鮮併合期において、柳宗悦が景福宮 (Kyongbokkung) を舞台として活躍したことは民俗学により明らかである。朝鮮総督府は、1922 年、景福宮の正門である光化門 (Kwanghwamun) の取壊しを決定した。これに対し柳宗悦は反対運動を行い^{☆1}、移転させることに成功した。また柳宗悦は、1924 年、朝鮮民族美術館 (Joshonminjok bakmulkhan) を景福宮内の絹敬堂 (Gyunrodang) と威和堂 (Wuiwhadang) に開

設した。

柳宗悦と浅川巧は、日本民藝館の開設 (1936 年) に先立つ 1924 年 4 月 9 日に、朝鮮民族美術館を開設した。柳宗悦研究の第一人者である水尾比呂志は、朝鮮民族美術館こそ「のちの日本民藝館のあらゆる意味における原型となった」^{☆2}と述べている。

本研究では朝鮮民族美術館の開設から閉館までを整理する。そして美術館に利用された絹敬堂 と威和堂の建築的特長を述べ、日本民藝館につながる美意識を確認する。

	日韓を中心とした国際関係	朝鮮民族美術館／日本民藝館	柳宗悦の言動	朝鮮総督府
1897年	「大韓民国」成立、高宗皇帝即位			
1902年	日英同盟			
1904年	日露戦争開始 (～1905) 日韓議定書締結			
1905年	日英同盟更新 (朝鮮支配を承認) 乙巳保護条約 (韓国の外交権が日本に移る)			
1907年	日仏条約 (朝鮮支配を承認)、米国とも同様 日露協商 (朝鮮支配を合意)			
1910年	日韓併合条約調印			朝鮮総督府官制
1914年	第一次世界大戦 (～1917)			
1916年				朝鮮総督府新庁舎建設開始
1917年	ロシア革命 (日露協商が無効化)			
1919年	3.1独立運動		「朝鮮人を想う」『読売新聞』5.20～24	斎藤実総督赴任、文化政治へ転換
1920年		講演会・音楽会 (京城)	「朝鮮の友に贈る書」『改造』6月号	
1921年	フシントン会議	「朝鮮民族美術館の設立に就て」『白樺』第12巻第1号 音楽会・講演会 (開城・平壤・鎮南浦) 「西欧名画複製展覧会」開催 (処京城日報社「来青閣」、普成学校) 「朝鮮民族美術展覧会」(流逸荘画廊、神田)	「陶磁器の美」『新潮』1月号	
1922年		「ウリアム・ブレイクに関する講演会並に展覧会」(京城) 「李朝陶磁器展覧会」(処朝鮮貴族会館)	「失なわれんとする朝鮮建築のために」『改造』	光化門取壊決定
1923年	関東大震災			
1924年		絹敬堂使用許可		
1925年		「木喰佛写真展」(処朝鮮民族美術館)		
1926年		「日本民藝美術館設立趣意書」		朝鮮総督府新庁舎完成
1927年		「朝鮮美術工芸品二千字」(李朝陶器展)		
1936年		日本民藝館開館		
1928年		「民芸館ブース」(上野博覧会)→移転「三國荘」(山本為三郎邸、大阪)		
1945年	終戦			
1946年		民族博物館に吸収		

表1. 朝鮮民族美術館設立運動と日韓関係

The outline of the Fork Art Museum of Korean people, 1921-1946.
-An attempt to evaluate the architectural history of “Muneyoshi Yanagi”.-

Yutaka TADA, Yoetsu Fujiya

2. 開設まで

柳宗悦は、『白樺』1921年1月号において、『朝鮮民族美術館』の設立に就て」を発表した。その趣意は「私は先づここに民族美術 Fork Art としての朝鮮の味はひのにじみ出た作品を募集しようと思ふ。如何なる意味に於ても、私はこの美術館に於て、人々に朝鮮の美を伝えたい。さうしてそこに現はれる民族の人情を目前に呼び起こしたい。そのみならず、私は之が消えようとする民族美術の、消えない持続と新たな復活との動因になる事を希る」ことにあつた。

続々と集まった寄付金は、1922年10月22日までに累計9,480円となった^{☆3}。こうした寄付金を用い、柳宗悦らは展示品を収集した。

柳宗悦は、1921年に入ると、美術館の設立特に用地収容のため頻繁に朝鮮を訪れた。柳宗悦は、1月11日に、朝鮮総督斉藤実海軍大将と面会した。斉藤実は神武門(Sinmumun)外にある観豊楼(Khannongro)を無償提供することを約束

した^{☆4}。斉藤実は文化政策^{☆5}を標榜していたため、柳の計画を承認したと考えられる。だが観豊楼は展覧会場としては手狭であり、事務室兼収蔵庫として利用された。

1921年11月26、27日に、「西欧名画複製展覧会」が京城で開催された。1922年10月5日から7日まで「李朝陶磁器展覧会」が朝鮮貴族院にて開かれた。どちらも朝鮮民族博物館の主催によるものである。

柳宗悦に対し、1924年3月20日、朝鮮総督府の絹敬堂の使用許可が通告された。4月9日に朝鮮民族美術館が開館された^{☆6}。

3. 閉館まで

開館後は年に二回(春秋)、展覧会が開催されたと伝えられている^{☆7}。ただ展覧会期間外は閉館していた。希望者があつた時は、浅川巧が鍵を開けて案内したと伝えられている。



図1. 威和堂

浅川巧の死去(1931年4月2日)以降は、兄浅川伯教の手に鍵が渡された。

戦時中には、展示品は「絹敬堂から勤政殿の回廊の一部に保管替え」^{☆8}られた。日本の敗戦に際し、浅川伯教はGHQより朝鮮工藝研究を評価され、特に昭和21年まで在留を許された。伯教は展示物を民族美術館(宋錫夏設立)に吸収させた^{☆9}。

4. 建築について

堂内各室には朝鮮の家具調度が、器物を伴い整然と配置された。床には絨毯がひかれ、壁間には民画が掛けられた。柳宗悦らの収集した李朝代の民芸品と、建築との渾然と一体化した様子を読み取ることができる。

美術館の様子について、民芸運動家の外村吉之介はその回想録の中で「どの品も裸かで棚に並べられ、互いに呼び交わしながら生々としていた。(中略)膳や四方棚や自

在な形の棚類、それが一緒に暮らしたい思いをそるように、陶器の陳列と一つになっている。古い建築に一致したすべての統一、そして寂しさと清らかさに満ちていた」と記述している。

また加藤松林人の回想では、「朝鮮の人たちの生活に付随し、生活の道具であったものは何でも集められていた。」という。

このように朝鮮民族美術館は、収蔵品を展示するだけでなく、李朝代の生活そのものを再現、展示する意図があったことが読み取れる。

こうした美術館の性格は、日本民芸館設立要項に示された柳宗悦の「陳列はそれ自身一つの技藝であり創作であって、出来るなら民藝館自体が一つの作品になるように育てたいと思う。とにかく美術館は冷たい静止的な陳列場に陥り易いのであるから、もっと親しく暖かい場所にしたい」という意志に裏付けされる。



図2. 絹敬堂

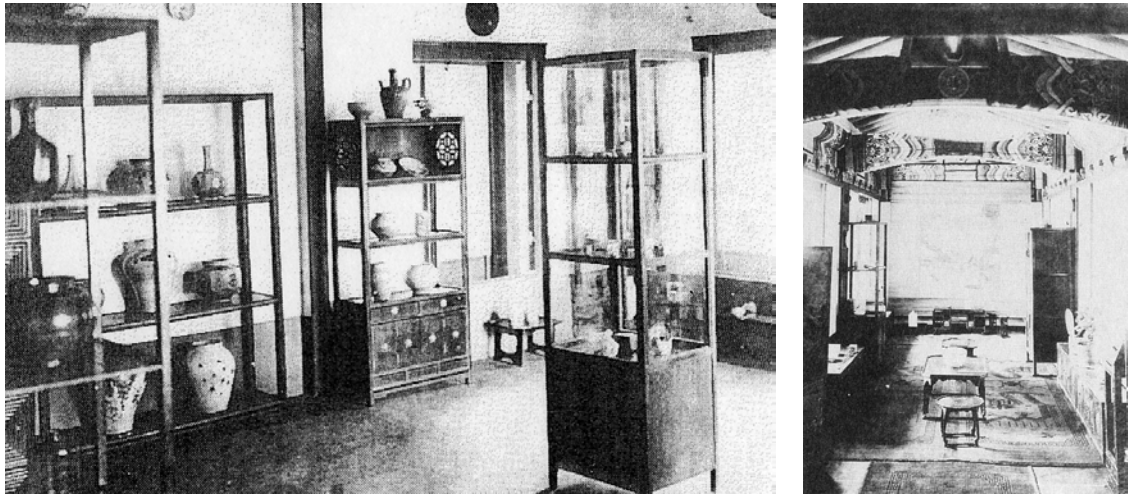


図 3、4 朝鮮民族美術館内部

5. 小結

本研究では朝鮮民族美術館の開館から閉館までを整理した。そして美術館に利用された絹敬堂と威和堂の建築的特長を述べた。

李朝代の様式を正確に残す絹敬堂と威和堂とは、朝鮮総督府による破壊^{☆10}を免れた遺構である。ここで柳宗悦は李朝代の生活

(駐)



☆1 光化門は景福宮の東に移築されたことが「大京城精図第五号」(1936、個人蔵)より伺える。1947年に正面に戻されたが、朝鮮戦争によって焼失した。現在のこの光化門は復元である。

☆2 水尾比呂志、『評伝 柳宗悦』P107、1992、筑摩書房

☆3『白樺』紙の寄付金報告による。また柳宗悦の妻兼子は、1921年5月、朝鮮音楽会の収益約3,000円を寄付した。

☆4 齊藤実父は父権悦の後輩にあたる。また宗悦の妹千枝子の夫今村武志は総督府内務局長であった。

☆5 三・一独立運動(1919年)の後、朝鮮総督に就任した齊藤実父は、武断政治にかえ「文化政治」を標榜した。京城帝国大学設立や、朝鮮総督府美術展覧会創設、また朝鮮語新聞発行を許可した。

☆6 柳宗悦による開館の案内状によって、絹敬堂を朝鮮民族美術館として用いたことがわかる。

「謹啓

陳謝本館募集にかかる朝鮮美術品を今般景福宮内

そのものを復元した。この性格は、日本民藝館にも見出すことができる。

柳宗悦の美意識とは、民族が築き上げてきた文化を生活の中で保存していくことであつた。朝鮮民族美術館には、総督府の朝鮮同化政策に対する反発もあつたと考えられる。

絹敬堂に蔵置致す事に相成候に就てはその一部を陳列し御高覧に供し候間来る九日午後自一時至五時御来館の栄を得度此段御案内申上候。

大正十三年四月五日

朝鮮民族美術館 柳宗悦

追伸 御来館の節候化門にて此状御示し下され候はば御案内申上可く候」

☆7 しかし確認できる展覧会は、木喰仏写真展(1925年4月)、朝鮮美術工芸品二千点の展示(1927年10月9日)李朝陶磁展(1928年7月21日から30日)である。

☆8 土井浜一、『回想の柳宗悦』、八潮書店

☆9 戦後は、これらの展示品は韓国国立博物館に移されたことが、土田真紀などの調査によって明らかになっている。

☆9 朝鮮総督府美術館は、1938年4月、朝鮮民族美術館より北、乾清堂があつた地に建設された。総督府美術館ができた折に「絹敬堂と威和堂(Wuihwadang)とは事務室に当てられていた」とあるが、依然明らかではない。

☆10 朝鮮総督府新庁舎建設によって、光化門は解体され、景福宮が視界から閉ざされたことは有名である。